



# ポリシーを使用したスマートライセンスिंगの設定方法：トポロジ別のワークフロー

このセクションでは、サポートされるトポロジを最も簡単かつ迅速に実装するための設定情報を順番に説明します。

- トポロジのワークフロー：CSLU を介して CSSM に接続 (1 ページ)
- トポロジのワークフロー：CSSM に直接接続 (3 ページ)
- トポロジのワークフロー：CSLU は CSSM から切断 (5 ページ)
- トポロジのワークフロー：CSSM への接続なし、CSLU なし (8 ページ)
- vManage を使用して製品インスタンスを管理するためのワークフロー (9 ページ)

## トポロジのワークフロー：CSLU を介して CSSM に接続

製品インスタンス開始型通信と CSLU 開始型通信のどちらを実装するかに応じて、対応する一連のタスクを実行します。

- 製品インスタンス開始型通信のためのタスク
- CSLU 開始型通信のためのタスク

製品インスタンス開始型通信のためのタスク

CSLU のインストール→CSLU の環境設定→製品インスタンスの設定

### 1. CSLU のインストール

タスクの実行場所：Windows ホスト（ラップトップ、デスクトップ、または仮想マシン（VM））

『Cisco Smart License Utility Quick Start Setup Guide』を参照してください。

### 2. CSLU の環境設定

タスクの実行場所：CSLU

#### 1. シスコへのログイン（CSLU インターフェイス）

2. スマートアカウントとバーチャルアカウントの設定 (CSLU インターフェイス)
3. CSLU での製品開始型製品インスタンスの追加 (CSLU インターフェイス)

### 3. 製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

1. 製品インスタンス開始型通信のネットワーク到達可能性の確認
2. 転送タイプが **cslu** に設定されていることを確認します。

CSLU がデフォルトの転送タイプです。別のオプションを設定した場合は、グローバル コンフィギュレーション モードで **license smart transport cslu** コマンドを入力します。

```
Device(config)# license smart transport cslu
```

3. CSLU の検出方法を指定します (1 つ選択)

- オプション 1：

アクションは不要です。cslu-local のゼロタッチ DNS ディスカバリ。

ホスト名 **cslu-local** が CSLU の IP アドレス (CSLU をインストールした Windows ホスト) にマッピングされているエントリを使用してネームサーバを設定した場合、設定は不要です。製品インスタンスは、ホスト名 **cslu-local** を自動的に検出します。

- オプション 2：

ドメインの DNS ディスカバリを設定します。

グローバル コンフィギュレーション モードで **ip domain-name domain\_name** コマンドを入力します。次の例では、ネームサーバはエントリ **cslu-local.example.com** を作成します。

```
Device(config)# ip domain-name example.com
```

- オプション 3：

CSLU に特定の URL を設定します。

グローバル コンフィギュレーション モードで **license smart url cslu http://<cslu\_ip\_or\_host>:8182/cslu/v1/pi** コマンドを入力します。<cslu\_ip\_or\_host> には、CSLU をインストールした Windows ホストのホスト名または IP アドレスを入力します。8182 はポート番号であり、CSLU が使用する唯一のポート番号です。

```
Device(config)# license smart url cslu http://192.168.0.1:8182/cslu/v1/pi
```

#### 結果：

製品インスタンスは通信を開始すると、ポリシーに従って、スケジュールされた時刻に最初の RUM レポートを自動的に送信します。この最初のレポートとともに、必要に応じて、信頼コード要求を送信します。製品インスタンスがこの情報をいつ送信するかを確認するには、特権

EXEC モードで **show license all** コマンドを入力し、出力で `Next report push:` フィールドの日付を確認します。

CSLU は、情報を CSSM に転送し、返される ACK を製品インスタンスにインストールします。CSSM から ACK を取得し、インストールのために製品インスタンスに送り返します。

### CSLU 開始型通信のためのタスク

#### CSLU のインストール→CSLU の環境設定→製品インスタンスの設定

##### 1. CSLU のインストール

タスクの実行場所：Windows ホスト（ラップトップ、デスクトップ、または仮想マシン（VM））

『Cisco Smart License Utility Quick Start Setup Guide』を参照してください。

##### 2. CSLU の環境設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

1. シスコへのログイン（CSLU インターフェイス）
2. スマートアカウントとバーチャルアカウントの設定（CSLU インターフェイス）
3. CSLU での CSLU 開始型製品インスタンスの追加（CSLU インターフェイス）
4. RUM レポートを受信するための CSLU での CSLU 開始型製品インスタンスの設定（CSLU インターフェイス）

##### 3. 製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

CSLU 開始型通信のネットワーク到達可能性の確認

結果：

CSLU から RUM レポートを収集し、CSSM に送信できるようになりました。それには、[Actions for Selected] メニューに移動し、[Collect Usage] を選択します。RUM レポートが CSSM に送信されます。この最初のレポートとともに、必要に応じて、CSLU は信頼コード要求と承認コード要求を CSSM に送信します。CSSM から ACK を取得し、インストールのために製品インスタンスに送り返します。

## トポロジのワークフロー：CSSMに直接接続

スマートアカウントのセットアップ→製品インスタンスの設定→CSSMによる信頼の確立→承認コードのインストール（該当する場合のみ）

##### 1. スマートアカウントのセットアップ

タスクが実行される場所：CSSM Web UI、<https://software.cisco.com/>

スマートアカウントと必要なバーチャルアカウントへの適切なアクセス権を持つユーザーロールがあることを確認します。

## 2. 製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

1. CSSM への製品インスタンス接続の設定：[CSSM への接続の設定](#)
2. 接続方法と転送タイプの設定（1つ選択）

- オプション 1：

スマート転送：転送タイプを **smart** に設定し、対応する URL を設定します。

転送モードが **license smart transport smart** に設定されている場合は、**license smart url default** を設定すると、スマート URL

(<https://smartreceiver.cisco.com/licservice/license>) が自動的に設定されます。

```
Device(config)# license smart transport smart
Device(config)# license smart url default
```

- オプション 2：

HTTPS プロキシを介したスマート転送：「HTTPS プロキシを介したスマート転送の設定」セクションを参照してください。

- オプション 3：

ダイレクトクラウドアクセス用に Call Home サービスを設定します。「ダイレクトクラウドアクセス用の Call Home サービスの設定」セクションを参照してください。

- オプション 4：

HTTPS プロキシを介したダイレクトクラウドアクセス用に Call Home サービスを設定します。「HTTPS プロキシサーバを介したダイレクトクラウドアクセス用の Call Home サービスの設定」セクションを参照してください。

## 3. CSSM との信頼の確立

タスクが実行される場所：CSSM Web UI、次に製品インスタンス

1. 所有するバーチャルアカウントごとに 1 つのトークンを生成します。1 つのバーチャルアカウントに属するすべての製品インスタンスに同じトークンを使用できます。  
[CSSM からの信頼コード用新規トークンの生成](#)
  2. トークンをダウンロードしたら、製品インスタンスに信頼コードをインストールできます。  
[信頼コードのインストール](#)
4. 承認コードのインストール（該当する場合のみ）

使用前に承認が必要なライセンスを使用する場合（適用タイプ：適用（エンフォース）または輸出規制）、または（サポートされる製品インスタンスで）250 MB を超えるスルー

プットを設定する場合は、このトポロジの展開を行う前にこの手順を完了する必要があります。 [SLACの手動要求と自動インストール](#)

#### 結果：

信頼を確立した後、CSSMはポリシーを返します。ポリシーは、そのバーチャルアカウントのすべての製品インスタンスに自動的にインストールされます。ポリシーは、製品インスタンスが使用状況をレポートするかどうか、およびその頻度を指定します。

より頻繁にレポートを作成するようにレポート間隔を変更する場合は、製品インスタンスで **license smart usage interval** コマンドを設定します。詳細については、[license smart \(グローバルコンフィギュレーション\)](#) を参照してください。

## トポロジのワークフロー：CSLUはCSSMから切断

製品インスタンス開始型通信またはCSLU開始型通信のどちらの方法を実装するかによって異なります。以下の対応するタスク一覧を実行します。

- [製品インスタンス開始型通信のためのタスク](#)
- [CSLU 開始型通信のためのタスク](#)

#### 製品インスタンス開始型通信のためのタスク

CSLUのインストール→CSLUの環境設定→製品インスタンスの設定→[Download All for Cisco]と[Upload From Cisco]

##### 1. CSLUのインストール

タスクの実行場所：Windows ホスト（ラップトップ、デスクトップ、または仮想マシン（VM））

『Cisco Smart License Utility Quick Start Setup Guide』を参照してください。

##### 2. CSLUの環境設定

タスクの実行場所：CSLU

1. CSLUの[Preferences]タブで、[Cisco Connectivity] トグルスイッチをオフにします。フィールドが「Cisco Is Not Available」に切り替わります。
2. [スマートアカウントとバーチャルアカウントの設定（CSLU インターフェイス）](#)
3. [CSLU での製品開始型製品インスタンスの追加（CSLU インターフェイス）](#)

##### 3. 製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

1. [製品インスタンス開始型通信のネットワーク到達可能性の確認](#)
2. 転送タイプが **cslu** に設定されていることを確認します。

CSLUがデフォルトの転送タイプです。別のオプションを設定した場合は、グローバルコンフィギュレーションモードで **license smart transport cslu** コマンドを入力します。

```
Device(config)# license smart transport cslu
```

### 3. CSLUの検出方法を指定します（1つ選択）

- オプション1：

No action required.cslu-localのゼロタッチDNSディスカバリ用に設定されたネームサーバ

ここでは、DNSを設定してあり（ネームサーバのIPアドレスが製品インスタンスで設定されている）、ホスト名 `cslu-local` がCSLU IPアドレスにマッピングされているエントリがDNSサーバにある場合、それ以上のアクションは不要です。製品インスタンスは、ホスト名 `cslu-local` を自動的に検出します。

- オプション2：

No action required.cslu-local.<domain>のゼロタッチDNSディスカバリ用に設定されたネームサーバとドメイン

ここでは、DNSを設定してあり（ネームサーバのIPアドレスとドメインが製品インスタンスで設定されている）、`cslu-local.<domain>` がCSLU IPアドレスにマッピングされているエントリがDNSサーバにある場合、それ以上のアクションは不要です。製品インスタンスは、ホスト名 `cslu-local` を自動的に検出します。

- オプション3：

CSLUに特定のURLを設定します。

グローバルコンフィギュレーションモードで **license smart url cslu**

`http://<cslu_ip_or_host>:8182/cslu/v1/pi` コマンドを入力します。<cslu\_ip\_or\_host>には、CSLUをインストールしたWindowsホストのホスト名またはIPアドレスを入力します。8182はポート番号であり、CSLUが使用する唯一のポート番号です。

```
Device(config)# license smart url cslu http://192.168.0.1:8182/cslu/v1/pi
```

### 4. [Download All for Cisco] と [Upload From Cisco]

タスクの実行場所：CSLUとCSSM

1. [Download All For Cisco](#)（CSLUインターフェイス）
2. [CSSMへの使用状況データのアップロードとACKのダウンロード](#)
3. [Upload From Cisco](#)（CSLUインターフェイス）

結果：

製品インスタンスは通信を開始すると、ポリシーに従って、スケジュールされた時刻に最初のRUMレポートを自動的に送信します。この最初のレポートとともに、必要に応じて、信頼コード要求を送信します。製品インスタンスがこの情報をいつ送信するかを確認するには、特権

EXEC モードで **show license all** コマンドを入力し、出力で `Next report push:` フィールドの日付を確認します。

CSLU は CSSM から切断されるため、CSLU が製品インスタンスから収集した使用状況データをファイルに保存する必要があります。次に、シスコに接続されているワークステーションからファイルを CSSM にアップロードします。その後、CSSM から ACK をダウンロードします。CSLU がインストールされて製品インスタンスに接続されているワークステーションで、ファイルを CSLU にアップロードします。

## CSLU 開始型通信のためのタスク

CSLU のインストール→CSLU の環境設定→製品インスタンスの設定→[Download All for Cisco] と [Upload From Cisco]

### 1. CSLU のインストール

タスクの実行場所：Windows ホスト（ラップトップ、デスクトップ、または仮想マシン（VM））

『Cisco Smart License Utility Quick Start Setup Guide』を参照してください。

### 2. CSLU の環境設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

1. CSLU の [Preferences] タブで、[Cisco Connectivity] トグルスイッチをオフにします。フィールドが「Cisco Is Not Available」に切り替わります。
2. [スマートアカウントとバーチャルアカウントの設定（CSLU インターフェイス）](#)
3. [CSLU での CSLU 開始型製品インスタンスの追加（CSLU インターフェイス）](#)
4. [RUM レポートを受信するための CSLU での CSLU 開始型製品インスタンスの設定（CSLU インターフェイス）](#)

### 3. 製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

[CSLU 開始型通信のネットワーク到達可能性の確認](#)

### 4. [Download All for Cisco] と [Upload From Cisco]

タスクの実行場所：CSLU と CSSM

1. [Download All For Cisco（CSLU インターフェイス）](#)
2. [CSSM への使用状況データのアップロードと ACK のダウンロード](#)
3. [Upload From Cisco（CSLU インターフェイス）](#)

結果：

CSLUからRUMレポートを収集し、CSSMに送信できるようになりました。それには、[Actions for Selected]メニューに移動し、[Collect Usage]を選択します。該当する場合、レポートには信頼コード要求と承認コード要求も含まれます。

CSLUはCSSMから切断されるため、CSLUが製品インスタンスから収集した使用状況データをファイルに保存する必要があります。次に、シスコに接続されているワークステーションからファイルをCSSMにアップロードします。この後、CSSMからACKをダウンロードします。CSLUがインストールされて製品インスタンスに接続されているワークステーションで、ファイルをCSLUにアップロードします。

## トポロジのワークフロー：CSSM への接続なし、CSLU なし

他のコンポーネントへの接続を設定する必要がないため、トポロジの設定に必要なタスクのリストは短くなります。このトポロジを実装した後に必要な使用状況レポートを作成する方法については、ワークフローの最後にある「結果」セクションを参照してください。

製品インスタンスの設定→承認コードのインストール（該当する場合のみ）

### 1. 製品インスタンスの設定

タスクが実行される場所：製品インスタンス

転送タイプをオフに設定します。

グローバルコンフィギュレーションモードで **license smart transport off** コマンドを入力します。

```
Device(config)# license smart transport off
```

### 2. 承認コードのインストール（該当する場合のみ）

タスクが実行される場所：CSSM、次に製品インスタンス

1. 使用前に承認が必要なライセンスを使用する場合（適用タイプ：適用（エンフォースメント）または輸出規制）：[CSSMからのSLACの生成とファイルへのダウンロード](#)
2. ダウンロードしたSLACファイルのインストール：[製品インスタンスへのファイルのインストール](#)

結果：

製品インスタンスとのすべての通信を無効にしているため、ライセンスの使用状況をレポートするには、RUMレポートを（製品インスタンス上の）ファイルに保存してから、CSSMにアップロードする必要があります（インターネットとシスコに接続されているワークステーションから）。

### 1. RUMレポートの生成と保存



**license smart save usage** コマンドを特権 EXEC モードで入力します。次の例では、すべての RUM レポートがファイル `all_rum.txt` で製品インスタンスのフラッシュメモリに保存されます。コマンドシンタックスの詳細については、[license smart](#) (特権 EXEC) コマンドを参照してください。この例では、ファイルはまずブートフラッシュに保存され、次に TFTP の場所にコピーされます。

```
Device# license smart save usage all bootflash:all_rum.txt
Device# copy bootflash:all_rum.txt tftp://10.8.0.6/all_rum.txt
```

2. 使用状況データを CSSM にアップロード：[CSSM への使用状況データのアップロードと ACK のダウンロード](#)
3. ACK を製品インスタンスにインストール：[製品インスタンスへのファイルのインストール](#)

## vManage を使用して製品インスタンスを管理するためのワークフロー

製品インスタンスが vManage によって管理される場合：



(注) Cisco vManage はコントローラとしてサポートされていません。また、Cisco SD-WAN コントローラモードで実行されているエッジデバイスは、HSECK9 ライセンスの処理を除き、ポリシーを使用するスマートライセンスの他の機能をサポートしていません。

- 製品インスタンスは、RUM レポートを生成せず、ライセンス使用状況情報を保存しません。
- 250 MB を超えるスループットが必要な場合は、製品インスタンスに承認コードが必要です。

以前のスマートライセンス環境でインストールされた HSECK9 PAK ライセンスにすることも、ポリシーを使用したスマートライセンスをサポートするソフトウェアバージョンにアップグレードした後に SLAC をインストールすることもできます。

- 信頼コードは必要ありません。

vManage を使用して製品インスタンスを管理するには、製品インスタンスを「コントローラモード」で動作するように設定する必要があります。ポリシーを使用したスマートライセンスの観点からは、追加の設定は必要ありません。

使用前に承認が必要なライセンスを使用する場合（適用タイプ：適用（エンフォース）または輸出規制）、または（サポートされる製品インスタンスで）250 MB を超えるスループットが必要な場合は、使用される接続に応じて SLAC のインストールを完了する必要があります。

- CSSM に直接接続、または CSLU を介して CSSM に接続：[SLAC の手動要求と自動インストール](#)

- CSSM への接続なし、CSLU なし：CSSM からの SLAC の生成とファイルへのダウンロード。